

大宮

矢立池の碑

鎌倉時代の初めに富士の裾野*1で巻狩*2を行った源頼朝が、矢を射立てたところから清水が湧き出し、その湧き水が矢立池になったといわれています。

その他にも、大宮町誌(1930年)では、墨つぼが「矢立」といわれるため、池の水で墨を磨ったという説や、山の神に矢を手向けてから狩りをする風習があったため、弓矢に関連しているという説があります。



現在、池は埋め立てられ、石碑のみ残されています

- ※1 現在の裾野市や御殿場市、富士宮市(朝霧高原一帯、人穴、白糸、上井出、北山など)
- ※2 イノシシやシカなどの獲物を大勢で四方から取り囲み、追い詰めて射止める狩りのこと



二つ石

矢立池の近くにある「二つ石」といわれる大きな石は、源頼朝が馬に乗るときに踏み台にしたといわれています。



歩く博物館 H東コース<大宮東地区> 旧大宮町東地区をめぐるコース

市役所6階文化課、郷土資料館(文化会館内)、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。

HP トップページ>市民の皆さんへ>教育・文化・スポーツ>郷土資料館>歩く博物館



大宮町鉄道馬車会社発着所の碑

馬車鉄道は、レール上の客車や貨車を馬が引いて運ぶ鉄道で、明治時代に各地で運行し、市内にも富士馬車鉄道と富士軌道の2路線が敷かれました。

富士馬車鉄道は、明治23(1890)年、鈴川駅(現在のJR吉原駅)~大宮町駅(現在の弓沢町)間で開通し、後に松山町駅(現在の西町)まで延長され、大正時代の終わりまで運行しました。鈴川駅から松山町駅までは、約2時間かかり、毎日上下各15本の馬車が運行していました。



富士馬車鉄道「大宮町駅」発着所跡には、記念碑が建てられています。

富士軌道は、明治42(1909)年、製紙工場や製材所への木材搬送を目的に大宮(現在の中央町)~上井出間で開通し、昭和13(1938)年バスの登場によって廃止されました。

富士山麓の傾斜地を馬力で登れるよう、傾斜の緩い場所を選んで軌道が敷かれました。市内各地では、今もその跡を見ることができます。



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

- 料 500円
- 申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で
- 他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。
- 問 文化課 ☎22-1187
✉e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

有料ガイドブック

